

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育V
科目基礎情報					
科目番号	15560	科目区分	一般 / 必修		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	アクティブスポーツ総合版 (大修館書店) その他, 図書館に多数の関連書籍がある。				
担当教員	川原 繁樹				
到達目標					
<p>【テニス】</p> <p>1. グランドストロークでのラリーを続けることができる。</p> <p>2. 確実なサービスが打てる。</p> <p>3. ゲームの進め方を理解し, スコアシートを利用できる。</p> <p>4. ルールを理解しゲームができる。</p> <p>【ゴルフ】</p> <p>5. 7番アイアンで確実にゴルフボールを打つことができる。</p> <p>6. 安定したパターを打つことができる。</p> <p>7. ルールを理解しゲームができる。</p> <p>【卓球】</p> <p>8. ラリーを続けることができる。</p> <p>9. ルールを理解しゲームができる。</p> <p>【保健】</p> <p>10. 運動と健康について, 理解を深め説明できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 主体性	状況を判断し, 積極的に準備や運動課題の解決に取り組むことができる。	準備や運動課題の解決に進んで取り組むことができる。	指示が出されても準備や運動課題を解決しようとしめない。		
評価項目2 合意形成	他者の意見を尊重しつつ, 各種課題の解決方法を提案しながら全体の方向性を調整できる。	課題の解決方法や方向性に関して発言しつつ, 他者の意見との共通点や相違点を見つけることができる。	他者の意見を尊重することができず, 自己都合で勝手な行動をとる。		
評価項目3 チームワーク力	全体を活気付ける言動により, 多様な能力や意欲を持つ集団の一体感を高めることができる。	他のメンバーと協力しながら, 目標達成に向かって活動を進めることができる。	他者と関わらず, 運動に参加しなかったり単独プレーしかできない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1					
教育方法等					
概要	保健体育は技術者としてはもとより, 人間としてより良い生活を実践していくための基礎学力および国際社会を多面的に捉える教養を身につける。個人の健康の保持増進に努めると共に, 幅広い視点から社会性を身につけ, 意欲的かつ実践的に運動課題の解決に取り組む姿勢を育成する。				
授業の進め方・方法	理解を深めるため, 必要に応じてレポートや課題を課すことがある。				
注意点	雨天時は体育館にてバレーボールまたはバスケットボールを実施する。 運動に適した服装およびシューズを着用すること。体育館に入るときは必ず室内シューズに履きかえること。 障害防止等安全上の観点より, 実技授業中は携帯電話の保持やアクセサリー類の着用を禁ずる。 怪我等身体的事由により規定の種目が受講できない場合, 適宜レポート課題を課す。				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス, スポーツテスト (屋外種目)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		2週	スポーツテスト (屋内種目)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		3週	球技 I テニス (ラケット捌きとボールコントロール)	基本的なラケット捌きとボールコントロールができる。	
		4週	球技 I テニス (グランドストローク・フォアハンド)	基本的なラケット捌きとボールコントロールができる。	
		5週	球技 I テニス (グランドストローク・バックハンド)	基本的なラケット捌きとボールコントロールができる。	
		6週	球技 I テニス (サービス練習, ゲームの説明と審判法の理解)	ルールを理解し, ゲームの説明が理解できる。	
		7週	球技 I テニス (ストロークテスト)	実技テストの課題を達成できる。	
		8週	球技 I テニス (ダブルスゲーム)	ルールを理解し自主的にゲームを進行できる。	
	2ndQ	9週	球技 I テニス (ダブルスゲーム)	ルールを理解し自主的にゲームを進行できる。	
		10週	球技 II 卓球 (ラリーとサーブ練習)	基本的なラケット捌きとボールコントロールができる。	
		11週	球技 II 卓球 (ダブルスゲーム)	ルールを理解し, ゲームの説明が理解できる。	
		12週	球技 III ゴルフ (室内にてクラブの持ち方, 素振り, 練習用ボール打ち)	安全に留意し, 基本的なクラブ捌きと的確にボールを打つことができる。	
		13週	球技 III ゴルフ (室内にてボール打ち, パター練習)	安全に留意し, 基本的なクラブ捌きと的確にボールを打つことができる。	
		14週	球技 III ゴルフ ※学外打ち放し練習場	社会一般的マナーに則り, 練習した課題を実践できる。	
		15週	前期復習	前期の授業内容を振り返り, 理解し説明できる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		実技試験	筆記試験	合計	
総合評価割合		80	20	100	
分野横断的能力		80	20	100	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語講読 I I I		
科目基礎情報							
科目番号	15670	科目区分	一般 / 必修				
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	『Science for Fun!』 (金星堂)						
担当教員	川島 嘉美						
到達目標							
アメリカの科学雑誌に掲載された多様な科学分野の記事を通し、読解力や聴解力、語彙力、文法を含めた総合的な基礎英語力を培う。同時に、背景知識を得ることで、幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる力を育成する。また、実社会で使われている様々なスタイルの英文にふれ、実用的な場面での対応力を養う。これらの活動を通し、国際社会を多面的に考えることができる語学力と教養を身につけることを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	基本的な語彙を身につけることができる。	基本的な語彙をほぼ身につけることができる。	基本的な語彙を身につけることが困難である。				
評価項目2	身につけた語彙を含む英文を聴いて理解できる。	身につけた語彙を含む英文を聴いてほぼ理解できる。	身につけた語彙を含む英文を聴いて理解するのが困難である。				
評価項目3	長文を読んで構成や主旨をつかむことができる。	長文を読んで構成や主旨をつかむことがほぼできる。	長文を読んで構成や主旨をつかむことが困難である。				
評価項目4	既習の文法事項を長文の中で理解できる。	既習の文法事項を長文の中でほぼ理解できる。	既習の文法事項を長文の中で理解するのが困難である。				
評価項目5	既習の文法事項を用いて単文を作成できる。	既習の文法事項を用いて単文をほぼ作成できる。	既習の文法事項を用いて単文を作成するのが困難である。				
評価項目6	様々なタイプの文書から必要な情報を把握できる。	ある程度のタイプの文書から必要な情報を把握できる。	様々なタイプの文書から必要な情報を把握するのが困難である。				
評価項目7	TOEIC400点を上回るレベルの英語力を身につけることができる。	TOEIC400点レベルの英語力を身につけることができる。	TOEIC400点レベルの英語力を身につけることが困難である。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	Secret Taste Cells — In Some Surprising Places				
		2週	Singing Sand				
		3週	Christmas Tree Science				
		4週	Watch a Zebrafish Think				
		5週	The Time-Traveling Flower				
		6週	Super Seaweed-Slurping Gut Bugs				
		7週	Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place				
		8週	Your Brain on Music				
	2ndQ	9週	Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools				
		10週	Too Quick to Be Roadkill				
		11週	Meet Your Mighty Microbes				
		12週	Raise Your Hand, Robots Go to School				
		13週	Jet Lug = Brain Damage for Hamsters				
		14週	What Do Elephants and Rats Have in Common?				
		15週	Spying on Disease, 前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	小テスト	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	25	15	0	0	0	100
基礎的能力	60	25	15	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	第2外国語 I I (中国語)
科目基礎情報					
科目番号	18440	科目区分	一般 / 選択		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 中国語 さらなる一歩 竹島金吾著 白水社 教材等: 中日日中辞書				
担当教員	唐堂 由其				
到達目標					
1. 中国語の基本会話する能力を身に付ける。 2. 様々な話題の中国語の文章の読解力を身に付ける。 3. 自分の考えや意見を中国語で書いたり、発表したりできるようになる。 4. より複雑な構文を理解でき、語彙を増やし、表現力を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 到達目標1,2	中国語の基本的知識を身につけ、自由に会話し、標準的な中国語文章を読みこなすことができる。	中国語の基本的知識を身につけ、中国語会話・文章読解ができる。	中国語についての理解が不十分で、会話や読解がスムーズにできない。		
評価項目2 到達目標3	中国語で思考し、これをまとめて表現を工夫しながら文章化し、また口頭発表することができる。	中国語で自分の考えをまとめ、文章化し、口頭発表できる。	中国語で自分の思考を充分まとめることができず、口頭発表もスムーズに出来ない。		
評価項目3 到達目標4	中国語による高度な読解、語彙理解、表現ができる	中国語による高度な表現を理解することができる。	中国語による高度な表現の理解が困難である。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1					
教育方法等					
概要	中国の「大学生生活」「社会事情」「文化風習」といった身近な話題についての文章の学習を通じて、中国語によるコミュニケーション能力の向上、簡単な中国語文章を速読できる力を養成し、中国語の重要な文法事項を定着させ、技術者として必要な基礎学力を習得させる。更に中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国語圏の社会や文化に対する理解を深め、幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮して国際社会を多面的に考えることができるようになることを目標とする。				
授業の進め方・方法	【授業の進め方】講義・演習・小テスト・課題により行う。 1. 大きい声で積極的に発音する。 2. 単語を覚える 3. 予習・復習する。教科書付属の音声教材を使い、繰り返し練習する。 4. 辞書を活用する。 【事前事後学習など】レポートや小テストなど、提出物は必ず提出すること。				
注意点	【評価基準・方法】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験、期末試験、学年末試験を実施する。 前期末: 中間試験・期末試験の平均点 (50%) 及び小テスト・レポート・演習実績 (50%) からの総合判断 学年末: 前期成績と後期成績 (算出方法は前期と同じ) の平均				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・発音及び基本文法の復習	基本的発音・文法理解ができる。	
		2週	中国に行こう (1)	中国語による旅行会話を理解し、活用できる。	
		3週	中国に行こう (2)	中国語による旅行会話を理解し、活用できる。	
		4週	ウーロン茶を飲もう (1)	中国語による商品注文ができる。	
		5週	ウーロン茶を飲もう (2)	中国語による商品注文ができる。	
		6週	友だちを作ろう (1)	中国語による自己紹介・会話・質疑応答ができる。	
		7週	友だちを作ろう (2)	中国語による自己紹介・会話・質疑応答ができる。	
		8週	長城に登ろう (1)	中国語による案内表示板・地図読解ができる。	
	2ndQ	9週	長城に登ろう (2)	中国語による案内表示板・地図読解ができる。	
		10週	漢字を覚えよう (1)	中国語特有の漢字を多く理解できる。	
		11週	漢字を覚えよう (2)	中国語特有の漢字を多く理解できる。	
		12週	街を歩こう (1)	中国語で道を尋ね、目的地に到達することができる。	
		13週	街を歩こう (2)	中国語を理解し、街歩きを堪能できる。	
		14週	前期のまとめ	前期の学習内容について理解し、活用できる。	
		15週	前期復習	前期の学習内容について深く理解し、自由に活用できる。	
		16週	テスト返却	前期末試験の結果を受け、自分の問題点を理解し、改善できる。	
後期	3rdQ	1週	中国の映画を見よう (1)	中国語で中国映画を理解し、鑑賞できる。	
		2週	中国の映画を見よう (2)	中国語で中国映画を理解し、鑑賞できる。	
		3週	シルクを買おう (1)	中国語で商品について質問し、購買できる。	
		4週	シルクを買おう (2)	中国語で商品について質問し、購買できる。	

4thQ	5週	中華を食べよう（1）	中国語で飲食店のメニューについて理解し、料理を注文できる。
	6週	中華を食べよう（2）	中国語で飲食店のメニューについて理解し、料理を注文できる。
	7週	映画の紹介	中国映画を深く理解し、中国語で紹介できる。
	8週	太極拳を習おう（1）	中国語で身体運動についての説明をよく理解することができる。
	9週	太極拳を習おう（2）	中国語で身体運動についての説明をよく理解することができる。
	10週	水滸伝を楽しもう（1）	中国古典文学を中国語で理解し、鑑賞することができる。
	11週	水滸伝を楽しもう（2）	中国古典文学を中国語で理解し、鑑賞することができる。
	12週	春節を過ごそう（1）	中国語会話を通じて中国の伝統行事を理解し、堪能することができる。
	13週	春節を過ごそう（2）	中国語会話を通じて中国の伝統行事を理解し、堪能することができる。
	14週	後期のまとめ	後期の学習内容について理解し、活用できる。
	15週	後期復習	後期の学習内容について深く理解し、自由に活用できる。
	16週	テスト返却	学年末試験の結果を受け、自分の問題点について理解し、改善できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	第2 外国語 I I (独語)
科目基礎情報					
科目番号	18441		科目区分	一般 / 選択	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Szenen2 『場面で学ぶドイツ語 コンパクト』(三修社) 佐藤修子 他 4年生のときの教科書			教材等:	独和辞典 参考書:
担当教員	神田 和恵				
到達目標					
1. 日常会話がスムーズにできること。 2. ドイツ語の聞きとりに習熟すること。 3. 基礎文法を使いこなすこと。 4. 長文読解 5. ドイツ語圏の文化理解を深める					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 到達目標1,2	ドイツ語を正確に聞き取り、よく理解して、適切な会話をスムーズかつ表現豊かに行うことができる。	ドイツ語を聞き取り、適切な会話を行うことができる。	ドイツ語を正確に聞き取れず、適切な会話が十分にできない。		
評価項目2 到達目標3,4	ドイツ語の文法を自在に使いこなすことができ、長文読解もスムーズにできる。	ドイツ語の文法について理解し、長文読解ができる。	ドイツ語の文法についての理解が不十分で、長文読解がスムーズにできない。		
評価項目3 到達目標5,	ドイツ語圏の文化について深く理解し、これに基づき国際人として適切な思考と判断・対応ができる。	ドイツ語圏の文化について理解し、適切な対応ができる。	ドイツ語圏の文化についての理解が不十分で、適切な判断・対応ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1					
教育方法等					
概要	4年生で学んだ初級ドイツ語文法の力を基にして、ドイツ語の日常会話に習熟し、聞きとり、筆記、作文、読解、発音、イントネーションなどの力を総合的に高め、国際社会の一員としての教養と基礎学力を身に付ける。また、ドイツ語圏の歴史や文化、社会について学び、環境保護意識の高さなどについても学び、国際社会を多面的に考える教養を身につける。				
授業の進め方・方法	[授業の進め方] 講義・演習・小テスト・課題により行う。 [事前事後学習など] 1. CDをよく聞き、発音は大きな声で。 2. 予習をして演習での質問に備えること。 3. 独和辞典と4年生のときの教科書の活用。 提出物は必ず出すこと。				
注意点	「評価基準・方法」成績の評価基準として6.0点を合格とする。 中間試験、期末試験、学年末試験を実施する。 前期末: 前期中間試験・期末試験の平均点(50%)及びレポート・演習実績(50%)からの総合判断 学年末: 前期成績と後期成績(算出方法は前期と同じ)の平均				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	L.1 レストランで 注文・支払い	ドイツ語で飲食店での注文と支払いができる。	
		2週	L.1 話法の助動詞・不定冠詞	話法の助動詞、不定冠詞について理解し、活用できる。	
		3週	L.2 ホテルで 予約・比較	ドイツ語でホテルの予約ができ、適切な宿を選ぶ。	
		4週	L.2 指示代名詞	指示代名詞について理解し、活用できる。	
		5週	ドイツの食べ物、ヨーロッパでの休暇	ドイツ語でドイツの食べ物及びヨーロッパの休暇について理解し、堪能できる。	
		6週	L.3 街で ドイツのタクシー	ドイツ語で街歩きを楽しみ、タクシーを利用できる。	
		7週	L.3 定冠詞・不定冠詞	定冠詞・不定冠詞について理解し、活用できる。	
		8週	ドイツの映画1	ドイツ語でドイツ映画を理解し、鑑賞できる。	
	2ndQ	9週	L.4 旅行と交通	ドイツ語で交通機関を利用した旅行ができる。	
		10週	L.4 分離動詞・数詞・現在完了形・過去形	分離動詞・数詞・現在完了形・過去形について理解し、活用できる。	
		11週	クロスワードパズル、ミュンヘンでの一日	ドイツ語でクロスワードパズルを解き、ミュンヘンでの一日を楽しむことができる。	
		12週	L.5 天気 ドイツの四季と休暇地	ドイツ語でドイツの四季について理解し、季節に応じてリゾートを堪能できる。	
		13週	L.5 従属接続詞と副文	従属接続詞と副文について理解し、活用できる。	
		14週	ドイツの映画2	ドイツ語でドイツ映画を理解し、鑑賞できる。	
		15週	前期復習	前期の学習内容について理解し、活用できる。	
		16週	テスト返却	前期末試験の結果を受け、自分の問題点について理解し、改善できる。	
後期	3rdQ	1週	ことわざ、すごろく	ドイツ語のことわざを理解し、活用できる。ドイツ語ですごろくを楽しむことができる。	

4thQ	2週	L.6 健康と体の手入れ 病気・生活習慣	ドイツ語で健康・病気・生活習慣について理解し、ヘルスクエアができる。
	3週	L.6 医者 再帰動詞	ドイツ語で医者にかかることができる。再帰動詞について理解し、活用できる。
	4週	L.7 贈り物と招待 ドイツの誕生日	ドイツ語で贈り物を持参して誕生日に参加することができる。
	5週	L.7 人称代名詞・所有冠詞・指示代名詞	人称代名詞・所有冠詞・指示代名詞について理解し、活用できる。
	6週	読み物クイズ, 色と衣服	ドイツ語で読み物とクイズを楽しむことができる。ドイツ語の色と衣服について理解し、活用できる。
	7週	L.8 履歴と学校制度	ドイツ語で履歴書を作成でき、またドイツの学制について理解できる。
	8週	L.8 ドイツの森の幼稚園 接続法Ⅱ式	ドイツ語でドイツの幼児教育について理解し、適切な対応ができる。接続法Ⅱ式について理解し、活用できる。
	9週	ドイツの映画3	ドイツ語でドイツ映画を理解し、鑑賞できる。
	10週	L.9 ごみと環境	ドイツ語でドイツの環境政策について理解し、適切に対応できる。
	11週	L.9 副文・命令形・zu不定詞	副文・命令形・zu不定詞について理解し、活用できる。
	12週	「もし…だったら」, 「ここでは何ができませんか」	従属の接続詞と副文について理解し、活用できる。トランプル回避のためのドイツ語会話ができる。
	13週	L.10 祝祭と祝日 イースター・クリスマス・カーニバル	ドイツ語でドイツの伝統行事を理解し、参加することができる。
	14週	L.10 受動文・関係文, クリスマスクッキー・新年	受動文・関係文について理解し、活用できる。ドイツ語でドイツの伝統行事を理解し、参加できる。
	15週	後期復習	後期の学習内容について理解し、活用できる。
	16週	テスト返却	学年末試験の結果を受け、自分の問題点について理解し、改善できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	特別英語演習
科目基礎情報					
科目番号	18450	科目区分	一般 / 選択		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕著『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』(金星堂)				
担当教員	川島 嘉美, 太田 伸子, キース イライアス				
到達目標					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		発展的な内容の語彙やTOEIC頻出語彙を身につけることができる。	基本的な語彙やTOEIC頻出語彙を身につけることができる。	基本的な語彙やTOEIC頻出語彙を身につけることが困難である。	
評価項目2		発展的な内容の英単語や英会話が聴き取れる。	基本的な英単語や英会話が聴き取れる。	基本的な英単語や英会話が聴き取ることが困難である。	
評価項目3		発展的な内容の会話やトーク中の表現の意図がつかめる。	基本的な会話やトーク中の表現の意図がつかめる。	会話やトーク中の表現の意図がつかむことが困難である。	
評価項目4		発展的な内容の会話やトークと図表を照らし合わせて必要な情報を得ることができる。	基本的な会話やトークと図表を照らし合わせて必要な情報を得ることができる。	会話やトークと図表を照らし合わせて必要な情報を得ることが困難である。	
評価項目5		発展的な内容のアナウンスやナレーションなどから必要な情報を得ることができる。	基本的なアナウンスやナレーションなどから必要な情報を得ることができる。	アナウンスやナレーションなどから必要な情報を得ることが困難である。	
評価項目6		選択肢の中から文法的に正しい表現を正確に選べる。	選択肢の中から文法的に正しい表現をほぼ正確に選べる。	選択肢の中から文法的に正しい表現を選ぶことが困難である。	
評価項目7		選択肢の中から意味的に適切な語を正確に選べる。	選択肢の中から意味的に適切な語をほぼ正確に選べる。	選択肢の中から意味的に適切な語を選ぶことが困難である。	
評価項目8		文書を読み, または複数の文書を読み比べ, 必要な情報を正確に把握できる。	文書を読み, または複数の文書を読み比べ, 必要な情報をほぼ正確に把握できる。	文書を読み, または複数の文書を読み比べ, 必要な情報を把握することが困難である。	
評価項目9		文書の流れをつかみ, 指定された文を適切な位置に正確に挿入できる。	文書の流れをつかみ, 指定された文を適切な位置にほぼ正確に挿入できる。	文書の流れをつかむのが困難である。	
評価項目10		目標を上回るTOEICスコアに必要な英語力を身につけることができる。	目標とするTOEICスコアに必要な英語力を身につけることができる。	目標とするTOEICスコアに必要な英語力を身につけることが困難である。	
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1					
教育方法等					
概要					
授業の進め方・方法					
注意点					
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	導入, Unit1 Travel 旅に関する表現/時制		
		2週	Unit2 Dining Out 外食や飲食に関する表現/主述の一致		
		3週	Unit3 Media メディアで伝えられる情報/態		
		4週	Unit4 Entertainment 文化施設等での表現/動名詞・不定詞		
		5週	Unit5 Purchasing 商品購入にまつわる表現/代名詞		
		6週	Unit6 Clients 取引先とのやりとり/品詞1		
		7週	Unit7 Recruiting 求人に関する会話や文書/品詞2		
		8週	Unit8 Personnel 研修・退職・異動に関する表現/品詞3		
	4thQ	9週	Unit9 Advertising 広告・宣伝等で使われる表現/比較		
		10週	Unit10 Meetings 会議にまつわる表現/前置詞		
		11週	Unit11 Finance 予算・費用・請求に関するやりとり/接続詞		
		12週	Unit12 Offices 同僚との会話や業務連絡など/接続詞・前置詞		
		13週	Unit13 Daily Life 日常生活で生じる必要な表現/関係代名詞		
		14週	Unit14 Sales & Marketing 販売や調査に関する表現/語彙1		
		15週	Unit15 Events 各種イベントで使われる表現/語彙2, 後期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築情報処理演習
科目基礎情報					
科目番号	18000		科目区分	専門 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	関連プリントを配布する。				
担当教員	森原 崇,西本 雅人				
到達目標					
1. 身のまわりの建築や都市に関心をはらい、調査テーマを設定できる。 2. 問題にたいする調査方法論を組み立てられる。 3. 方法論にしたがい、統計的にデータ分析できる。 4. 建築形態に情報を付加し表現できる。 5. SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	身のまわりの建築や都市に関心をはらい、調査テーマを設定できる。	身のまわりの建築や都市に関心をはらい、基本的な調査テーマを設定できる。	身のまわりの建築や都市に関心をはらい、調査テーマを設定できない。		
評価項目2	問題にたいする調査方法論を組み立てられる。	基本的な問題にたいする調査方法論を組み立てられる。	問題にたいする調査方法論を組み立てられない。		
評価項目3	方法論にしたがい、統計的にデータ分析できる。	基本的な方法論にしたがい、統計的にデータ分析できる。	方法論にしたがい、統計的にデータ分析できない。		
評価項目4	建築形態に情報を付加し表現できる。	建築形態に情報を付加し基本的な表現ができる。	建築形態に情報を付加し表現できない。		
評価項目5	SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができる。	SU Podiumによる基本的なレンダリング、設定変更を行なうことができる。	SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	現代の建築創造、デザインにおいて、社会や環境に関する情報収集は多岐にわたる。本科目では、建築の計画を行う上で必要となる情報を収集・整理する基礎的な知識や、建築形態を的確に情報付加し論理的に表現する基本的技術について、演習をとおして養うことを目標とする。演習内容は使い方に対する要求度調査（主にアンケート調査）、統計処理、計画した建物の3D表現等を行う。				
授業の進め方・方法	[事前事後学習] 定期的に演習課題を出題する。 [関連科目] 建築計画学、コンピュータリテラシー、地域・都市計画、建築CAD基礎、建築CAD応用				
注意点	ワープロや表計算ソフトの基礎は習得しておくこと。 演習課題レポート提出にあたっては、所要項目について完備した内容であるか確認する。 [評価方法・評価基準] 演習課題 (100%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。				
テスト					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	イントロダクション	身のまわりの建築や都市に関心をはらい、調査テーマを設定できる。	
		2週	建築計画と設計条件に関する情報の収集	身のまわりの建築や都市に関心をはらい、調査テーマを設定できる。	
		3週	調査企画 (1)	問題に対する調査方法論を組み立てられる。	
		4週	調査企画 (2)	問題に対する調査方法論を組み立てられる。	
		5週	調査票 (1)	問題に対する調査方法論を組み立てられる。	
		6週	調査票 (2)	問題に対する調査方法論を組み立てられる。	
		7週	SU Podiumによるレンダリング画像の作成 (1)	SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができる。	
	8週	SU Podiumによるレンダリング画像の作成 (2)	SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができる。		
	2ndQ	9週	SU Podiumによるレンダリング画像の作成 (3)	SU Podiumによるレンダリング、設定変更を行なうことができる。	
		10週	データ処理 (1)	建築形態に情報を付加し表現できる。	
		11週	データ処理 (2)	建築形態に情報を付加し表現できる。	
		12週	データ処理 (3)	建築形態に情報を付加し表現できる。	
		13週	データ処理 (4)	建築形態に情報を付加し表現できる。	
		14週	データ処理 (5)	建築形態に情報を付加し表現できる。	
		15週	課題発表会 前期復習	建築形態に情報を付加し表現できる。	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域・都市計画		
科目基礎情報							
科目番号	18060	科目区分	専門 / 必修				
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	川上光彦「都市計画」(森北出版), 新建築学大系 16 都市計画 (彰国社) (ほか図書館に多数の関連書籍がある)						
担当教員	道地 慶子						
到達目標							
1. 都市の歴史を理解し, 説明できる。 2. 現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。 3. 地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。 4. 住宅地計画を理解し, 説明できる。 5. 地域・都市計画のあり方について考えを深める。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1、2	都市の歴史を理解し, 説明できる。 現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。	基本的な都市の歴史を理解し, 説明できる。 基本的な現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。	都市の歴史を理解し, 説明できない。 現代の地域・都市問題を理解し, 説明できない。				
評価項目3、4	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。 住宅地計画を理解し, 説明できる。	基本的な地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。 基本的な住宅地計画を理解し, 説明できる。	地域・都市計画法規を理解し, 説明できない。 住宅地計画を理解し, 説明できない。				
評価項目5	地域・都市計画のあり方について考えを深めることができる。	基本的な地域・都市計画のあり方について考えを深めることができる。	地域・都市計画のあり方について考えを深めることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 3 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	生活空間としての地域・都市のなりたち, 地域・都市計画行政のしくみを理解し, 設計システムの基礎として豊かな生活空間創造に必要な計画のありかたや社会・環境に配慮する方法, 問題解決に至る過程や仕組みを学ぶことを目的とする。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】地域・都市計画に関する実例学習のために, 新聞記事・ニュースなどに関心をはらうとよい。【関連科目】建築設計, 建築法規, 建築計画学, など						
注意点	【評価方法・評価基準】期末試験を実施する。再試験を実施することがある。試験成績(60%), 平常の学習における小課題の提出状況(40%)成績の評価基準として60点以上を合格とする。 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】配布するプリントは, 講義による説明を聞き合わせ, 必要事項を記入し内容を理解する。 授業で使用する教材の内容については, 自主的にメモを取り要点を把握しておく。						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	序論	地域・都市計画の対象を理解できる。			
		2週	近代より前の都市づくり(西欧)	都市の歴史を理解し, 説明できる。			
		3週	近代より前の都市づくり(日本)	都市の歴史を理解し, 説明できる。			
		4週	都市問題の発生と近代都市計画	現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。			
		5週	現代の居住をめぐる状況(1)都市	現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。			
		6週	現代の居住をめぐる状況(2)農山漁村	現代の地域・都市問題を理解し, 説明できる。			
		7週	都市計画のしくみと土地利用計画	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。			
		8週	宅地基盤の整備と土地区画整理事業	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。			
	2ndQ	9週	都市機能の更新と市街地再開発事業	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。			
		10週	地区計画制度	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。			
		11週	都市計画制度のいろいろ	地域・都市計画法規を理解し, 説明できる。			
		12週	新住宅地区の計画	住宅地計画を理解し, 説明できる。			
		13週	都市施設について	地域・都市計画のあり方について考えを深める。			
		14週	まちづくりの新たな視点	地域・都市計画のあり方について考えを深める。			
		15週	前期復習	地域・都市計画のあり方について考えを深める。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築防災工学
科目基礎情報					
科目番号	18130	科目区分	専門 / 必修		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 歴史に学ぶ防災の知恵, 教材等: 関連プリント, 新聞など, 参考書: 関連科目の教科書				
担当教員	恩村 定幸				
到達目標					
1. 災害の歴史とその背景・教訓について理解し, 説明できる。 2. 建築・都市火災の物理的側面の概要を理解し, 説明できる。 3. 火災の防止、火災における人命損失防止のしくみを理解し, 説明できる。 4. 火災、津波などの災害時の人間行動について理解し, 説明できる。 5. 地震被害の工学的問題点を理解できる。 6. 耐震に対する建築基準法での規定を理解し, 説明できる。 7. 耐震診断、耐震補強の位置付けを理解し, 説明できる。 8. 防災からまもる建築・都市の手法を理解し, 説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目 1	災害の歴史とその背景・教訓について理解し, 説明できる。	災害の歴史とその背景・教訓について理解できる。	災害の歴史とその背景・教訓について理解できない。		
到達目標項目 2	建築・都市火災の物理的側面の概要を理解し, 説明できる。	建築・都市火災の物理的側面の概要を理解できる。	建築・都市火災の物理的側面の概要を理解できない。		
到達目標項目 3	火災の防止、火災における人命損失防止のしくみを理解し, 説明できる。	火災の防止、火災における人命損失防止のしくみを理解できる。	火災の防止、火災における人命損失防止のしくみを理解できない。		
到達目標項目 4	火災、津波などの災害時の人間行動について理解し, 説明できる。	火災、津波などの災害時の人間行動について理解できる。	火災、津波などの災害時の人間行動について理解できない。		
到達目標項目 5	地震被害の工学的問題点を理解できる。	地震被害の問題点を理解できる。	地震被害の問題点を理解できない。		
到達目標項目 6	耐震に対する建築基準法での規定を理解し, 説明できる。	耐震に対する建築基準法での規定を理解できる。	耐震に対する建築基準法での規定を理解できない。		
到達目標項目 7	耐震診断、耐震補強の位置付けを理解し, 説明できる。	耐震診断、耐震補強の位置付けを理解できる。	耐震診断、耐震補強の位置付けを理解できない。		
到達目標項目 8	防災からまもる建築・都市の手法を理解し, 説明できる。	防災からまもる建築・都市の手法を理解できる。	防災からまもる建築・都市の手法を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	災害時における人的被害の多寡は、建築の安全性に因るところが大きい。本科目では災害が起こった場合に、人命及び周辺環境への社会的被害を最小限に抑えるために必要な、建築・都市防災の基礎知識を学び、建築工学の視点で防災上の諸問題の解決視点を学習する。同時に、日常生活においても建築技術者として、社会において果たすべき役割についても学習する。				
授業の進め方・方法	「事前事後学習」学習した内容の確認、自主的な研究を評価するために課題、小レポートを出題する。 「関連科目」建築設計、建築計画学、建築基準法、建築構造関連科目、建築材料関連科目、建築設備関連科目				
注意点	日ごろから、建築や都市の防災に気を配るように努める。例えば、新聞・雑誌・ニュース等でみられる関連情報に関心を持ち、自分なりの問題意識を持つこと。また、常に自分という単位ではなく、多くの人々の立場になるように学習すること。 「評価方法」 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験成績(35%)、学期末試験(35%)、課題(20%)、小レポート(10%)				
テスト					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	概論 災害とは	災害とは何かを理解し, 説明できる。	
		2週	日本における災害の歴史と防災	日本における災害の歴史と, 防災とは何かを理解し, 説明できる。	
		3週	防災の現状とBCP	災害の予測, 防災計画, BCPを理解し, 説明できる。	
		4週	火災1 出火と火災拡大	出火と火災拡大について理解し, 説明できる。	
		5週	火災2 火災対策1	火災対策の歴史を理解し, 説明できる。	
		6週	火災3 火災対策2	法規制による火災対策について理解し, 説明できる。	
		7週	火災4 火災対策3	建築設備による火災対策について理解し, 説明できる。	
	4thQ	8週	水害対策・台風対策	水害対策および台風対策を理解し, 説明できる。	
		9週	雪害対策	雪害対策を理解し, 説明できる。	
		10週	地震1 建築基準法の変遷	建築基準法の変遷と地震対策との関係, 耐震基準の成り立ちについて理解し, 説明できる。	
		11週	地震2 地震対策1	建築構造的な地震対策を理解し, 説明できる。	
		12週	地震3 地震対策2	耐震診断および耐震補強を理解し, 説明できる。	
	13週	地震4 地震対策3	津波予測および避難シミュレーションを理解し, 説明できる。		

		14週	まとめ	
		15週	後期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	課題	合計
総合評価割合	70	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	10	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	鉄筋コンクリート構造 I I		
科目基礎情報							
科目番号	18150		科目区分	専門 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	福島・大場・和田著「鉄筋コンクリート構造-第6版」(森北出版)						
担当教員	船戸 慶輔						
到達目標							
1. 鉄筋コンクリート断面算定の基本仮定について説明できる。 2. スラブの配筋について算定できる。 3. 耐震壁の配筋について算定できる。 4. 基礎の配筋について算定できる。 5. 定着と継手に関する諸量について説明できる。 6. 終局強度について説明できる。 7. 簡単な構造物の構造計算書について理解し, 説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要	鉄筋コンクリート構造物の力学的考え方について理解しておくことは, 構造設計をする場合だけでなく現場における施工技術者においても重要である。本授業では, 4年後期に引き続き, 構造部材についての力学上の基礎的知識を修得し, 断面算定や配筋の問題を解決する能力を養う。						
授業の進め方・方法	中間試験, 前期末試験を実施する。 前期末: 中間試験(50%), 期末試験(50%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 講義内容の把握度と, 到達目標の達成度を確認するため, 随時課題を与える。						
注意点	授業中とテスト直前の学習のみでなく, 平常時の予習・復習が大切です。 鉄筋コンクリート構造Iの内容と構造力学の基本について理解している必要があります。 講義内容のみを理解するだけでなく, 設計図面と照らし合わせながら考えられるようにすることが大切です。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	断面算定の基本事項の復習				
		2週	床スラブの設計I 平板理論				
		3週	床スラブの設計II 実用的設計				
		4週	スラブ部材の構造制限				
		5週	階段状部材の設計				
		6週	耐震壁の設計I 設計理論				
		7週	耐震壁の設計II 耐力の算定				
		8週	基礎の設計I 基礎の種類, 設計手順				
	2ndQ	9週	基礎の設計II 接地圧, 地反力				
		10週	基礎の設計III 独立基礎の配筋				
		11週	基礎の設計IV 杭基礎の設計				
		12週	定着と継手I 鉄筋の付着強度				
		13週	定着と継手II 構造制限				
		14週	終局強度の概説				
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	鉄骨構造 I I		
科目基礎情報							
科目番号	18170	科目区分	専門 / 必修				
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	橋本 篤秀「鉄骨構造」(市ヶ谷出版) ISBN: 4-87071-144-3						
担当教員	本間 小百合						
到達目標							
1. 高力ボルト接合の特徴を理解している。 2. 接合部の設計ができる。 3. パネルゾーンを理解している。 4. 柱・梁の応力や梁のたわみ量を計算し、安全度の検討が出来る。 5. 露出型柱脚の安全度の検討が出来る。 6. 架構の終局耐力を理解している。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1.2	適切な高力ボルト本数を算定し接合部の設計について十分理解している。	高力ボルト本数を算定し接合部の設計できる。	高力ボルト本数を算定できるが、接合部の設計について十分理解していない。				
評価項目3.4	接合部パネルの応力状態を十分に理解し、安全度を考慮して柱・梁の応力状態や梁のたわみ量を算定できる。	接合部パネルの応力状態を理解し、柱・梁の応力状態や梁のたわみ量を算定できる。	接合部パネルの応力状態を理解し、柱・梁の応力状態や梁のたわみ量の算定が困難である。				
評価項目5.6	露出型柱脚の安全度の検討ができる。	露出型柱脚の算定ができる。	露出型柱脚の算定が困難である。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1 専門(建築学) 創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要	4年次の鉄骨構造 I に続いて、本講義では鉄骨構造の許容応力度設計にもとづいた主要構造各部の安全性の検討に関する基礎知識を得て、鉄骨構造断面におけるさまざまな問題解決能力を養う。さらに、建物の性能を示す終局耐力に関する知識を修得して、より高度の設計法理解への基礎とする。						
授業の進め方・方法	授業内容の復習のため毎回課題を与えるので、時間外学習時間において課題を解き、次の講義に提出すること。						
注意点	演習問題を必ず行うことにより、不明な点を残さないこと。 質問を躊躇しないこと。 中間試験、期末試験を実施する。 試験成績80% (中間試験40%、期末試験40%)、課題20% 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	高力ボルト接合 (1)	高力ボルト接合の特徴を理解している。			
		2週	高力ボルト接合 (2)	高力ボルト接合の設計ができる。			
		3週	溶接接合 (1)	溶接接合の特徴を理解している。			
		4週	溶接接合 (2)	溶接接合の設計ができる。			
		5週	溶接欠陥	溶接欠陥の内容を理解している。			
		6週	継ぎ手の設計	継ぎ手の設計ができる。			
		7週	破壊現象	柱梁接合部周りの溶接部の破壊欠陥の理解及びその対策が理解できる。			
		8週	柱梁接合部設計 (1)	柱・梁の応力や梁のたわみ量を計算し、安全度の検討が出来る。			
	2ndQ	9週	柱梁接合部設計 (2)	柱・梁の応力や梁のたわみ量を計算し、安全度の検討が出来る。			
		10週	接合部パネル設計	パネルゾーンを理解している。			
		11週	柱脚の設計 (1)	露出型柱脚の安全度の検討が出来る。			
		12週	柱脚の設計 (2)	露出型柱脚の安全度の検討が出来る。			
		13週	ブレース (1)	ブレースの検討ができる。			
		14週	ブレース (2)	ブレースの検討ができる。			
		15週	前期復習	架構の終局耐力を理解している。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築構造設計論	
科目基礎情報							
科目番号	18220		科目区分	専門 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	竹村 誠二						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築振動論		
科目基礎情報							
科目番号	18230	科目区分	専門 / 必修				
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	金田勝徳他「建築の耐震・耐風入門」(彰国社)						
担当教員	船戸 慶輔						
到達目標							
1. 建築構造に関連する各種振動について、理解し、説明できる。 2. 地震動の性質と、その震害対策について説明できる。 3. 風の性質と、その振害対策について説明できる。 4. 簡単な構造モデルの自由振動について計算できる。 5. 振動問題の数値シミュレーションについて説明できる。 6. 耐震設計と構造計画について説明できる。 7. 耐震安全性の概念と振動論の適用について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 3 創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要	建築構造物は、つねに何らかの振動にさらされている状態にある。本授業は、種々の振動源によって与えられる建築構造物の振動問題について理解し、振動抑制のための技術について学ぶことを目的とする。とくに耐震設計において振動論の基礎知識は不可欠である。人々に物的な損害を与える建物の振動とその対策について学習し、社会における構造設計者の役割を確認する。						
授業の進め方・方法	中間試験、前期末試験を実施する。 前期末：中間試験(50%)、期末試験(50%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 講義内容の把握度と、到達目標の達成度を確認するため、随時課題を与える。						
注意点	授業中や試験直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習が大切です。 力学、解析学、構造力学の基本について理解する必要があります。 地震関連や台風関連など自然災害に関するニュース報道について、関心を持っておくようにして下さい。						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	建築構造における振動論の概要、目的				
		2週	各種の振動源とその評価				
		3週	振動の防止対策概略				
		4週	地震と震害				
		5週	地震波による建物の振動				
		6週	質点モデルによる振動解析概説				
		7週	地震に対する構造解析				
		8週	強風と風災害				
	4thQ	9週	風の性質と建物の振動				
		10週	建物の耐震・耐風設計概説				
		11週	耐震設計からみた構造計画				
		12週	耐震設計における荷重算定I				
		13週	耐震設計における荷重算定II				
		14週	高層建築物における振動問題概説				
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	土質基礎工学		
科目基礎情報							
科目番号	18240		科目区分	専門 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	北田 幸彦						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築環境工学 I I I	
科目基礎情報							
科目番号	18270		科目区分	専門 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 田中俊六他「建築環境工学 改訂3版」(井上書院)						
担当教員	恩村 定幸						
到達目標							
1. 建築環境の測定方法を理解し, 説明できる。 2. 建築環境の測定や解析の意義を理解し, 説明できる。 3. 非定常状態を理解し, 基礎式(微分方程式)が導出できる。 4. 基礎式を理解し, 四則計算が可能な数式に離散化できる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標項目1	建築環境の測定方法を理解し, 説明できる。		建築環境の測定方法を理解できる。		建築環境の測定方法を理解できない。		
到達目標項目2	建築環境の測定や解析の意義を理解し, 説明できる。		建築環境の測定や解析の意義を理解できる。		建築環境の測定や解析の意義を理解できない。		
到達目標項目3	非定常状態を理解し, 基礎式(微分方程式)が導出できる。		非定常状態を理解できる。		非定常状態を理解できない。		
到達目標項目4	基礎式を理解し, 四則計算が可能な数式に離散化できる。		基礎式を理解できる。		基礎式を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要	建築環境工学 I で学習した熱や水分の移動について, 非定常状態での取り扱い方を学習する。本科では建物の計画時における定常問題の解決能力をさらに発展させ, 日常的な非定常問題に対しても解決できる能力を養い, 熱水分の移動に関するだけでなく, 音や流体の非定常問題にも対処できる方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	「事前事後学習」授業の理解度を確認するために, 毎回, 演習課題を課します。 「関連科目」建築環境工学 I						
注意点	関数電卓, 定規等を用意すること。 演習課題の提出については締め切りを厳守すること。 配布資料はファイリングして保管すること。 「評価方法」 中間試験と期末試験を実施する。毎回の演習課題の提出状況および内容を評価する。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験 (40%), 期末試験 (40%), 演習 (20%)						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	建築環境の測定①			建築環境の測定方法を理解し, 説明できる。	
		2週	建築環境の測定②			建築環境の測定や解析の意義を理解し, 説明できる。	
		3週	非定常熱伝導(定常熱伝導)復習			熱・伝熱・熱貫流を理解し, 説明できる	
		4週	非定常熱伝導(定常熱伝導)演習			熱・伝熱・熱貫流を理解し, 壁体内の温度分布の計算ができる。	
		5週	非定常熱伝導(基礎理論)			非定常熱伝導を理解し, 基礎式を導出できる。	
		6週	非定常熱伝導(差分法①)			一次元の基礎式の離散化(差分)が行える。	
		7週	非定常熱伝導(差分法②)			二次元の基礎式の離散化(差分)が行える。	
		8週	非定常熱伝導(差分法③)			異なる材料がある場合の基礎式の離散化(差分)が行える。	
	2ndQ	9週	非定常熱伝導(差分法④)			位置刻みが不等分割の場合の基礎式の離散化(差分)が行える。	
		10週	非定常水分移動(定常水分移動)復習			壁体内の水分の移動を理解し, 説明できる	
		11週	非定常水分移動(定常水分移動)演習			壁体内の水分の分布が計算でき, 結露の検討が行える。	
		12週	非定常水分移動(基礎理論①)			非定常の水分の移動を理解し, 基礎式を導出できる。	
		13週	非定常水分移動(基礎理論②)			水分化学ポテンシャルの差を駆動力とした場合の熱水分同時移動方程式の解き方を理解できる。	
		14週	非定常水分移動(基礎理論③)			含水率や水蒸気圧の差を駆動力とした場合の熱水分同時移動方程式の解き方を理解できる。	
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	測量学演習
科目基礎情報					
科目番号	18310	科目区分	専門 / 必修		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	崎山宗威「新訂 わかり易い建築講座16 建築測量 第二版」(彰国社)				
担当教員	本間 小百合, 船戸 慶輔				
到達目標					
<p>①水準測量の基礎知識を理解できる。 ②水準測量の機器, および操作法を理解できる。 ③水準器(レベル)による高低差の測定法を理解できる。 ④水準器による縦断測量, 横断測量, 地形測量を理解できる。 ⑤誤差論に基づく測定値の処理方法の概略を理解できる。 ⑥実習を通じて, 巻尺による骨組測量の方法を習得する。 ⑦実習を通じて, 平板測量による平面図の作成法を習得する。 ⑧実習を通じて, 角測量による水平角の測定法を習得する。 ⑨実習を通じて, 角測量による水平角の測設法を習得する。 ⑩実習を通じて, 水準測量による高低差の測定法を習得する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	建築デザインのための基本事項として, 測量学は建築技術者としての基礎的素養の一つである。測量学の講義及び実習を通じて各種の測量法を理解し, 建築技術者としての基礎学力を身に付け, 実習を通して測量法の習得, さらに課題解決の方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	期末試験を実施する。前期末試験(45%), 実習報告書(45%), レポート(10%) 実習は各班の測量結果として提出される報告書および図面等の成果品をもとに評価する。 実習を欠席した場合, 欠席した回の実習の評価は0とする(報告書への連名を認めない)。 必要と認めるときは再試験等を実施することがある。成績の評価基準として60点を合格とする。				
注意点	平常時から予習, 復習を心がけ, 疑問点や理解できなかった点はそのまま放置せず, 授業時間内や放課後に積極的に質問すること。 4年次の測量学での学習内容をもとに実習をおこなうので, 測量器具・器械の操作法, 各種測量法をしっかりと理解しておくこと。 測量機器の操作方法を体得するためにも, 実習は重要である。実習には必ず出席すること。 実習の際には実習に適した服・靴を着用し, 筆記用具, 関数電卓, 教科書を持参すること。 担当教員が実習に不適切な服装・行動と判断した場合は, 実習に参加させないことがある。 実習の成果はその都度, 報告書として班ごとに必ず提出すること。 授業スケジュールは, 天候に応じて講義と実習の順序を変更する。				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義 ガイダンス	全体の授業の流れ及び方針を理解している。	
		2週	講義 誤差論に基づく測定値の処理方法	誤差論に基づく測定値の処理方法を理解している。	
		3週	実習 距離測量 巻尺による骨組測量	距離測量 巻尺による骨組測量を理解している。	
		4週	実習 平板測量 1 骨組測量	平板測量 1 骨組測量を理解している。	
		5週	実習 平板測量 2 細部測量	板測量 2 細部測量を理解している。	
		6週	講義 水準測量 1 高さ基準面, 水準測量の種類	水準測量 1 高さ基準面, 水準測量の種類について理解している。	
		7週	講義 水準測量 2 直接水準測量に使用する器械と器具	直接水準測量に使用する器械と器具について理解している。	
		8週	講義 水準測量 3 器械の据付法, 水準測量の用語と視準方法	水準測量の用語と視準方法を理解している。	
	2ndQ	9週	実習 角測量 1 水平角の測定	角測量 1 水平角の測定を理解している。	
		10週	実習 角測量 2 水平角の測設	角測量 2 水平角の測設を理解している。	
		11週	講義 水準測量 4 水準器の検査と調整, 高低測量	水準測量 4 水準器の検査と調整, 高低測量を理解している。	
		12週	講義 水準測量 5 縦断測量, 横断測量, 地形測量	水準測量 5 縦断測量, 横断測量, 地形測量を理解している。	
		13週	実習 水準測量 高低差測量	水準測量 高低差測量を理解している。	
		14週	講義 各種測量機器, 測量方法の補足	各種測量機器, 測量方法の補足について理解している。	
		15週	講義 各種測量機器, 測量方法の補足	各種測量機器, 測量方法の補足について理解している。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	45	0	0	0	45	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	45	0	0	0	45	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築生産
科目基礎情報					
科目番号	18320		科目区分	専門 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 現場技術者が教える「施工」の本<躯体編>、同<仕上編>				
担当教員	恩村 定幸				
到達目標					
1. 建設業の生産構造と現況を理解し, 説明できる。 2. 躯体工事の方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。 3. 仕上工事の方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。 4. 機能材料の施工方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。 5. 建築生産における材料の再利用, 環境保全のための方策を理解し, 説明できる。 6. 建築生産における契約を理解し, 説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1	建設業の生産構造と現況を理解し, 説明できる。	建設業の生産構造と現況を理解できる。	建設業の生産構造と現況を理解できない。		
到達目標項目2	躯体工事の方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。	躯体工事の方法と管理のポイントを理解できる。	躯体工事の方法と管理のポイントを理解できない。		
到達目標項目3	仕上工事の方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。	仕上工事の方法と管理のポイントを理解できる。	仕上工事の方法と管理のポイントを理解できない。		
到達目標項目4	機能材料の施工方法と管理のポイントを理解し, 説明できる。	機能材料の施工方法と管理のポイントを理解できる。	機能材料の施工方法と管理のポイントを理解できない。		
到達目標項目5	建築生産における材料の再利用, 環境保全のための方策を理解し, 説明できる。	建築生産における材料の再利用, 環境保全のための方策を理解できる。	建築生産における材料の再利用, 環境保全のための方策を理解できない。		
到達目標項目6	建築生産における契約を理解し, 説明できる。	建築生産における契約を理解できる。	建築生産における契約を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 3 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	本科目では, 「建築生産」の総体を理解するとともに, その中で主要な部分である「建築施工」を学習する。建築施工は, 建築計画・意匠・構造・設備・法規などの建築知識と, 施工管理技術を駆使し, 発注者ニーズに応え, 生命と財産を守る建造物を提供するという社会的な使命を持っている。そのために必要な, 建築技術者としての専門的知識と心構え, 問題の発見と解決過程について学習する。				
授業の進め方・方法	「事前事後学習」見学実習など可能な限り実施し, その際はレポートを提出させる。 「関連科目」構造力学, 建築材料Ⅰ, 建築材料Ⅱ, 鉄筋コンクリート構造, 鉄骨構造				
注意点	躯体工事については教科書を指定, 講義ではVTR、写真等の実例を多く示し理解を助ける。また、必要に応じてカタログ・サンプルの確認も行う。 建物の品質を最終的に決定するのは施工である、との認識を持ってこの科目を勉強してもらいたい。また、常日頃から建物や建築現場を漫然と見るのではなく、問題意識を持って見る癖を身に付けること。 「評価方法」 前期末試験, 学年末試験を実施する。前期と後期の成績をそれぞれ50%として学年末の総合成績とする。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 前期: 前期末試験 (60%) , レポート・小課題 (40%) 後期: 学年末試験 (60%) , レポート・小課題 (40%)				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概論「建築生産と建築施工」	建築生産と建築施工を理解し, 説明できる。	
		2週	概論「躯体工事とは」	躯体工事の概要を理解し, 説明できる。	
		3週	工事管理	工事管理を理解し, 説明できる。	
		4週	地業・杭工事	地業・杭工事を理解し, 説明できる。	
		5週	根切り・山留め工事	根切り・山留め工事を理解し, 説明できる。	
		6週	鉄筋コンクリート工事1	鉄筋コンクリート工事の概要を理解し, 説明できる。	
		7週	鉄筋コンクリート工事2 鉄筋工事	鉄筋工事を理解し, 説明できる。	
		8週	鉄筋コンクリート工事3 型枠工事	型枠工事を理解し, 説明できる。	
	2ndQ	9週	鉄筋コンクリート工事4 コンクリート工事	コンクリート工事を理解し, 説明できる。	
		10週	プレキャスト・コンクリート工事	プレキャスト・コンクリート工事を理解し, 説明できる。	
		11週	鉄骨工事1 鉄骨製作および工事共通事項	鉄骨製作および工事共通事項を理解し, 説明できる。	
		12週	鉄骨工事2 事務所ビル工事	事務所ビルの鉄骨工事を理解し, 説明できる。	
		13週	鉄骨工事3 大空間建築工事	大空間建築の鉄骨工事を理解し, 説明できる。	
		14週	躯体工事まとめ		
		15週	前期復習		
		16週			
後期	3rdQ	1週	概論「仕上げ工事とは」	仕上げ工事の概要を理解し, 説明できる。	
		2週	タイル工事	タイル工事を理解し, 説明できる。	

		3週	石工事	石工事を理解し、説明できる。	
		4週	左官工事	左官工事を理解し、説明できる。	
		5週	塗装工事	塗装工事を理解し、説明できる。	
		6週	金属工事	金属工事を理解し、説明できる。	
		7週	ガラス工事	ガラス工事を理解し、説明できる。	
		8週	メタルカーテンウォール工事	メタルカーテンウォール工事を理解し、説明できる。	
		4thQ	9週	P Cカーテンウォール工事	P Cカーテンウォール工事を理解し、説明できる。
			10週	防水工事	防水工事を理解し、説明できる。
	11週		シーリング工事	シーリング工事を理解し、説明できる。	
	12週		その他の仕上げ工事	その他の仕上げ工事を理解し、説明できる。	
	13週		建築工事を取り巻く状況	建築工事を取り巻く状況を理解し、説明できる。	
	14週		建築工事と環境保全	建築工事と環境保全を理解し、説明できる。	
	15週		後期復習		
	16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	課題	合計
総合評価割合	60	0	0	0	30	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	30	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築法規
科目基礎情報					
科目番号	18330		科目区分	専門 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	建築知識「01世界で一番くわしい建築基準法」(エクスマレッジ) 最新版				
担当教員	石渡 博				
到達目標					
1. 法律の体系と用語を理解し, 説明できる。 2. 建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。 3. 集団規定について理解し, 説明できる。 4. 単体規定について理解し, 説明できる。 5. 建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1, 2	法律の体系と用語を理解し, 説明できる。建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。	基本的な法律の体系と用語を理解し, 説明できる。基本的な建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。	法律の体系と用語を理解し, 説明できない。建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できない。		
評価項目3, 4	集団規定について理解し, 説明できる。単体規定について理解し, 説明できる。	基本的な集団規定について理解し, 説明できる。基本的な単体規定について理解し, 説明できる。	集団規定について理解し, 説明できない。単体規定について理解し, 説明できない。		
評価項目5	建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。	基本的な建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。	建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 3 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	社会情勢の変化に伴い建築関係法令は変化し, 複雑化している。当講座では, 建築基準法を中心とした建築に関する諸法令の基本的体系及びその概要を習得することにより, 建築技術者の建築活動に必要なとされる, 基礎的な知識, 問題解決のための判断能力, モラルを養うことを目的としている。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】講義内容の履修度復習のため, 関係法令規定による小テストを実施する。【関連科目】都市計画, 建築防災論, 構造力学, 建築環境工学, 施工				
注意点	【評価方法・評価基準】前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 前期成績 = 前期中間試験 (40%) + 前期末試験 (40%) + 小テスト等 (20%) 後期成績 = 後期中間試験 (40%) + 学年末試験 (40%) + 小テスト等 (20%) 学年成績 = 前期末成績 (50%) + 後期成績 (50%) 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】法律の細部を暗記的に理解するのではなく, 法の体系や, 法と建築設計や施工の関係を理解すること。 建築物単体の設計施工の視点だけではなく, 防災, バリアフリー, 景観等建築に関わるまちづくりを支える法的枠組みを理解すること。 法令集を日常的に使用し, 法的言い回しや「法律-施行令-規則-告示」の体系になれること。 法規制, 基準を通じて, 建築技術者として負うべき責務を理解すること。				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	法律の基礎知識	法律の体系と用語を理解し, 説明できる。建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。	
		2週	用語の定義1	法律の体系と用語を理解し, 説明できる。建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。	
		3週	用語の定義2	法律の体系と用語を理解し, 説明できる。建築基準法で使用する基本用語を理解し, 説明できる。	
		4週	敷地と道路1	集団規定について理解し, 説明できる。	
		5週	敷地と道路2	集団規定について理解し, 説明できる。	
		6週	都市計画法と用途地域	集団規定について理解し, 説明できる。	
		7週	容積率・建ぺい率	集団規定について理解し, 説明できる。	
		8週	前期中間まとめ	建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。	
	2ndQ	9週	前期中間復習	建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。	
		10週	建築面積・床面積	集団規定について理解し, 説明できる。	
		11週	高さ制限1	集団規定について理解し, 説明できる。	
		12週	高さ制限2	集団規定について理解し, 説明できる。	
		13週	高さ制限3	集団規定について理解し, 説明できる。	
		14週	日影規制	集団規定について理解し, 説明できる。	
		15週	前期復習	建築に関する関係法規の概要を理解し, 説明できる。	

		16週		
後期	3rdQ	1週	耐火建築物、耐火構造	建築基準法で使用する基本用語を理解し、説明できる。
		2週	準耐火建築物、準耐火構造	建築基準法で使用する基本用語を理解し、説明できる。
		3週	防火構造、防火地域	建築基準法で使用する基本用語を理解し、説明できる。
		4週	防火材料、耐水材料、防火設備	建築基準法で使用する基本用語を理解し、説明できる。
		5週	大規模木造、木造3階建て	単体規定について理解し、説明できる。
		6週	界壁・間仕切・隔壁	単体規定について理解し、説明できる。
		7週	内装制限・階段	単体規定について理解し、説明できる。
		8週	後期中間まとめ	建築に関する関係法規の概要を理解し、説明できる
	4thQ	9週	後期中間復習	建築に関する関係法規の概要を理解し、説明できる
		10週	歩行距離・避難階段	単体規定について理解し、説明できる。
		11週	出口・廊下・手摺・進入口	単体規定について理解し、説明できる。
		12週	排煙設備	単体規定について理解し、説明できる。
		13週	建築設備	単体規定について理解し、説明できる。
		14週	居室・構造	単体規定について理解し、説明できる。
		15週	後期復習	建築に関する関係法規の概要を理解し、説明できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	卒業研究
科目基礎情報					
科目番号	18400	科目区分	専門 / 必修		
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 9		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	9		
教科書/教材	指導教員の指示による。				
担当教員	建築学科 全教員				
到達目標					
1. 研究の目的と意義を把握している。 2. 研究過程を理解し、計画的に実行できる。 3. 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。 4. 研究の成果を把握し、まとめ上げることができる。 5. 研究成果を、限られた時間内で簡潔にわかりやすく発表できる。 6. 発表において、適切な質疑応答ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1、2、3	研究の目的と意義を把握している。研究過程を理解し、計画的に実行できる。自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	基本的な研究の目的と意義を把握している。基本的な研究過程を理解し、計画的に実行できる。自主的・継続的に学習できる基本的な能力を身につける。	研究の目的と意義を把握していない。研究過程を理解せず、計画的に実行できない。自主的・継続的に学習できる能力がない。		
評価項目4	研究の成果を把握し、まとめ上げることができる。	基本的な研究の成果をまとめ上げることができる。	研究の成果を把握し、まとめ上げることができない。		
評価項目5、6	研究成果を、限られた時間内で簡潔にわかりやすく発表できる。発表において、適切な質疑応答ができる。	研究成果を、時間内に発表できる。発表において、質疑応答ができる。	研究成果を、限られた時間内で発表できない。発表において、適切な質疑応答ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 4 創造工学プログラム A2 創造工学プログラム E1					
教育方法等					
概要	建築学に関するテーマについて専門教員の指導を受けながら、自立的に調査し、まとめ、推論し、検証し、結論を導き、その成果を発表する、という研究・発表のプロセスを学ぶ。高専での勉学の集大成となる。問題解決型学習をとおり、創造の喜びを修得することを目的とする。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】指導教員の指示による。【関連科目】建築学科全科目				
注意点	【評価方法・評価基準】以下の観点にもとづき、最終的に全教員の審査により判定する。 ・指導教員による、卒業論文の内容および日頃の取組方の評価 (70%) ・卒業研究発表におけるまとめ方および発表状況の評価 (30%) 「成績の評価基準として60点以上を合格とする。」 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】余裕のある限り、一つの結果に満足せず次のレベルを目指すこと。困難に思える問題も絶えず思考し続けることにより解決することが多々あるので、粘り強く問題に向かうこと。指導教員との打合せを怠らず、注意・助言等を積極的に受けること。				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	卒業研究ガイダンス	研究の目的と意義を把握する。	
		2週	卒業研究	研究の目的と意義を把握する。	
		3週	卒業研究	研究の目的と意義を把握する。	
		4週	卒業研究	研究の目的と意義を把握する。	
		5週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		6週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		7週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		8週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
	2ndQ	9週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		10週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		11週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		12週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		13週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		14週	卒業研究中間発表	研究成果を、限られた時間内で簡潔にわかりやすく発表できる。発表において、適切な質疑応答ができる。	
		15週	卒業研究	研究過程を理解し、計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。	
		16週			

後期	3rdQ	1週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		2週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		3週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		4週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		5週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		6週	卒業研究	研究過程を理解し，計画的に実行できる 自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
		7週	卒業研究中間発表	研究成果を，限られた時間内で簡潔にわかりやすく発表できる。発表において，適切な質疑応答ができる。
		8週	卒業研究	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
	4thQ	9週	卒業研究	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		10週	卒業研究	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		11週	卒業研究	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		12週	卒業研究	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		13週	卒業論文概要の提出	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		14週	卒業研究発表会	研究成果を，限られた時間内で簡潔にわかりやすく発表できる。発表において，適切な質疑応答ができる。
		15週	卒業論文提出	研究の成果を把握し，まとめ上げることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	0	0	70	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	環境マネジメント概論
科目基礎情報					
科目番号	18460	科目区分	専門 / 選択		
授業形態		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	伊坪徳宏「LCA概論」産業環境管理教会, 伊坪徳宏、稲葉敦「LIME2」産業環境管理教会				
担当教員	加藤 亨				
到達目標					
1. 環境マネジメントについて説明できる。 2. LCAについて説明できる。 3. RoHS, REACHについて説明できる。 4. 持続型社会について考え, 説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	環境マネジメントについて活用ができる	環境マネジメントについて説明できる	環境マネジメントについて説明できない		
	LCAについて活用できる	LCAについて説明できる	LCAについて説明できない		
	RoHS, REACHについて活用できる	RoHS, REACHについて説明できる	RoHS, REACHについて説明できない		
	持続型社会について考え, 活用できる	持続型社会について考え, 説明できる	持続型社会について考え, 説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム C1 創造工学プログラム D2					
教育方法等					
概要	大量生産大量消費の時代は終わりを告げ、環境調和と持続発展可能な社会を目指す時代を迎えている。その中で、技術者、組織（企業、各種団体）は、新しい時代の担い手として極めて大きな責任と役割を課せられている。本講義では、ISO14000が要求する環境マネジメントの全体像について学び、次いで、環境影響評価手法であるLCA（ライフサイクルアセスメント）を取り上げ、その概念と事例を学ぶ。最後に、自ら対象を選んで考えることにより、持続可能な社会を支える技術者としての問題発見力と評価力を習得する。 【キーワード】ISO14000, 環境側面, LCA, 3R, RoHS, REACH, グリーン調達				
授業の進め方・方法	卒業後、環境マネジメントに沿った活動が求められる。持続可能社会の実現に向け、自学自習に取り組むこと。 【事前事後学習など】達成度確認のため、随時レポート、課題を与える 【関連科目】建築計画学Ⅰ, 地域・都市計画, 建築法規, 環境倫理				
注意点	1. 達成度確認のため、随時レポート課題を与える。 2. レポート課題の一環としてノートの提出を求める場合がある。 予習・復習内容も授業ノートにまとめ、自分専用の参考書を作成するつもりで、丁寧にまとめあげること。 3. レポート作成や予習・復習は図書館を最大限活用し、自学自習を行うこと。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 後期中間試験および学年末試験を行う。 定期試験（80%）、適宜課すレポートや小テスト（20%）により評価する。				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	環境マネジメントとは	社会背景を説明できる	
		2週	企業活動と環境問題	企業・団体と個人の役割と責任を説明できる	
		3週	グリーン調達	企業・団体の行動規範として、グリーン調達を説明できる	
		4週	ISO14000の要求事項	グローバル規格とコンプライアンスの各必要性を説明できる	
		5週	環境側面の特定	環境側面について説明できる	
		6週	LCAと開発思考	LCAの必要性と開発時の考え方を説明できる	
		7週	インベントリ分析	インベントリ分析について説明できる	
		8週	インパクトアセスメント	インパクトアセスメントについて説明できる	
	4thQ	9週	LCA結果分析	LCAの分析結果を説明できる	
		10週	エネルギー問題と低炭素化社会	エネルギー問題、低炭素化社会について説明できる	
		11週	世界の動き：RoHS, REACH, GADSL	グローバル活動における各種規格について説明できる	
		12週	3R活動を含んだ持続型社会と身近な環境対策	企業・団体の各個人が行う環境への配慮の活動について説明できる	
		13週	進路先の環境対策について	大学・企業・団体の環境活動を説明できる	
		14週	環境問題について	エンジニアとして環境問題について、自分の考えを述べられる	
		15週	後期復習	経済活動と環境問題について説明できる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	3	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	3	
	全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3				
技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3					
		グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3	

評価割合

	試験	課題レポート 、テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築デザイン論
科目基礎情報					
科目番号	18470	科目区分	専門 / 選択		
授業形態		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	関連プリントを配布する。 / 近代建築史図集 (章国社), モダンアーキテクチャー①・② (A.D.A EDITA Tokyo)				
担当教員	熊澤 栄二				
到達目標					
1. 20世紀の建築的課題の展開について理解し, 説明できる。 2. 20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 3. 20世紀中葉における景観概念の発生について理解し, 説明できる。 4. 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。 5. 建築思想を各時代の文化的文脈に即して理解し, 説明できる。 6. 現代の建築の課題について理解し, 説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目1, 2, 3	20世紀中葉までの建築的課題について歴史的な因果性を踏まえて説明できる。	20世紀中葉までの建築的課題について一般的に説明できる。	20世紀中葉までの建築的課題について説明できない。		
到達目標 項目4, 5, 6	現代建築の課題について歴史的な因果性を踏まえて説明できる。	現代建築の課題について一般的に説明できる。	現代建築の課題について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学)					
教育方法等					
概要	基礎学力としての建築史を踏まえ, 現代の建築デザイン思想につながる建築手法や理論を, とりわけ1910年代と1960年代に焦点を絞って学習する。各時代の巨匠が直面してきた建築課題を専門的知識として具体的な建築作品の中から学び, 今後の社会と環境に配慮した建築設計や計画を行う際の問題解決の手法として習得する。				
授業の進め方・方法	20世紀の芸術理論、フランス(新)古典主義の理論とロマン主義への動向、プリティッシュ・アールヌーヴォからA.ガウディとO.ワグナーの造形理論の比較考察、L.カーンからイサム・ノグチにおける景観論の発生について講義を行う。 【事前事後学習など】理解を深めるため, 毎回予習・復習課題を与えるので必ず提出すること。 また、長期休暇時にレポートを課すことがあります。 【関連科目】西洋建築史, 日本建築史, 近代建築史, 建築設計I, II, III, IV				
注意点	授業内容を掘り下げる質問等を適宜行いますので積極的に参加してください。 授業中や定期試験直前の学習のみならず, 平常時の予習・復習が大切です。 【評価方法・評価基準】中間試験および期末試験を実施する。 試験成績 (90%), レポート・授業への積極的参加・小課題の提出状況 (10%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ヨーロッパにおける1910年代	20世紀の建築的課題の展開について理解し, 説明できる。 建築思想を各時代の文化的文脈に即して理解し, 説明できる。	
		2週	黎明期としての19世紀1 古典主義とロマン主義の相克1 ボザールの歴史	20世紀の建築的課題の展開について理解し, 説明できる。 建築思想を各時代の文化的文脈に即して理解し, 説明できる。	
		3週	黎明期としての19世紀1 古典主義とロマン主義の相克2 古典主義と新古典主義	20世紀の建築的課題の展開について理解し, 説明できる。 建築思想を各時代の文化的文脈に即して理解し, 説明できる。	
		4週	黎明期としての19世紀1 古典主義とロマン主義の相克3 古典主義の理論	20世紀の建築的課題の展開について理解し, 説明できる。 建築思想を各時代の文化的文脈に即して理解し, 説明できる。	
		5週	黎明期としての19世紀2 イギリス工芸運動1	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	
		6週	黎明期としての19世紀2 イギリス工芸運動2	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	
		7週	黎明期のヨーロッパ	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	
		8週	岐路としてのアール・ヌヴォ A.ガウディ1	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	
	2ndQ	9週	岐路としてのアール・ヌヴォ A.ガウディ2	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	
		10週	岐路としてのアール・ヌヴォ O.ワグナー1	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し, 説明できる。 建築家の建築思想について理解し, 説明できる。	

	11週	岐路としてのアール・ヌヴォ O.ワグナー2	20世紀初頭における空間概念の発生について理解し、説明できる。 建築家の建築思想について理解し、説明できる。
	12週	アメリカにおける1960年代 L.I.カーンの建築思想1	20世紀中葉における景観概念の発生について理解し、説明できる。 建築家の建築思想について理解し、説明できる。
	13週	アメリカにおける1960年代 L.I.カーンの建築思想2	20世紀中葉における景観概念の発生について理解し、説明できる。 建築家の建築思想について理解し、説明できる。
	14週	アメリカにおける1960年代 新たなる風景の発見：イサム・ノグチの造形思想	20世紀中葉における景観概念の発生について理解し、説明できる。現代の建築の課題について理解し、説明できる。
	15週	前期復習	現代の建築の課題について理解し、説明できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	0	0	0	10	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築経済		
科目基礎情報							
科目番号	18480	科目区分	専門 / 選択				
授業形態		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	経済調査会「建築経済学とLCC」						
担当教員	石渡 博						
到達目標							
1. 建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。 2. 建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。 3. LCC・FMの手法を理解し、説明できる。 4. 建築の性能と環境問題との関わりについて理解し、説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。	基本的な建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できない。				
評価項目2	建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。	基本的な建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。	建築保全の意義と手法を理解し、説明できない。				
評価項目3、4	LCC・FMの手法を理解し、説明できる。建築の性能と環境問題との関わりについて理解し、説明できる。	基本的なLCC・FMの手法を理解し、説明できる。基本的な建築の性能と環境問題との関わりについて理解し、説明できる。	LCC・FMの手法を理解し、説明できない。建築の性能と環境問題との関わりについて理解し、説明できない。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	「つくる」から「つかう」時代に入っている建築物をいかに効率よく使っていかを追求するためには、建築活動の社会的、経済的役割と諸問題について理解する必要がある。本講義では、建築生産（広義）の流れを通して、建築活動の社会的、経済的役割と諸問題について学習し、課題の解決手法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 定期試験に代えてレポート課題を課することがあるので、授業外学修時間に予習・復習をすること。【関連科目】 建築設計、建築生産、建築構法、地域・都市計画						
注意点	【評価方法・評価基準】 後期末試験を実施する。 試験成績（60%）、平常の学習における小課題の提出状況（40%） 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】 社会的実情に沿った建築に関わるコストについての意識を養い、現実的問題への適応性と変化する状況に対応する発展性を習得してください。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	建築経済の概念	建築経済の概要が理解できる。			
		2週	建築設計・積算（1）	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		3週	建築設計・積算（2）	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		4週	建築設計・積算（3）	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		5週	建築生産	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		6週	劣化と耐用年数	建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。			
		7週	建築保全	建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。			
		8週	修繕・改善・建替（1）	建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。			
	4thQ	9週	修繕・改善・建替（2）	建築保全の意義と手法を理解し、説明できる。			
		10週	LCC（1）	LCC・FMの手法を理解し、説明できる。			
		11週	LCC（2）	LCC・FMの手法を理解し、説明できる。			
		12週	FM・LCM	LCC・FMの手法を理解し、説明できる。			
		13週	建築の性能評価と環境問題	建築の性能と環境問題との関わりについて理解し、説明できる。			
		14週	まとめ	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		15週	後期復習	建築設計の流れとコストプランニングを理解し、説明できる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	6 0	0	0	0	4 0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	アーバンデザイン		
科目基礎情報							
科目番号	18490	科目区分	専門 / 選択				
授業形態		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	鳴海邦碩 + 神原和彦 + 田端修編著「都市デザインの手法」学芸出版社						
担当教員	道地 慶子						
到達目標							
1. アーバンデザインの系譜を理解し、説明できる。 2. 現代の地域・都市問題を理解し、説明できる。 3. アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。 4. 環境共生とそのデザイン手法を理解し、説明できる。 5. まちづくりの手法と住民参加について考えを深める。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1、2	アーバンデザインの系譜を理解し、説明できる。現代の地域・都市問題を理解し、説明できる。	基本的なアーバンデザインの系譜を理解し、説明できる。基本的な現代の地域・都市問題を理解し、説明できる。	アーバンデザインの系譜を理解し、説明できない。現代の地域・都市問題を理解し、説明できない。				
評価項目3	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。	基本的なアーバンデザインの手法を理解し、説明できる。	アーバンデザインの手法を理解し、説明できない。				
評価項目4、5	環境共生とそのデザイン手法を理解し、説明できる。まちづくりの手法と住民参加について考えを深める。	基本的な環境共生とそのデザイン手法を理解し、説明できる。基本的なまちづくりの手法と住民参加について考えを深める。	環境共生とそのデザイン手法を理解し、説明できない。まちづくりの手法と住民参加について考えを深めることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 本科教育目標 3 創造工学プログラム C1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	アーバンデザインとは、人間の感覚的な評価を重視した創造行為と理解し、設計システムの基礎として豊かな生活空間創造に必要な計画のありかたや社会・環境に配慮する方法、問題解決に至る過程や手法を学ぶことを目的とする。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】地域・都市計画に関する実例学習のために、新聞記事・ニュースなどに関心をはらうとよい。【関連科目】理解を深めるため、毎回予習・復習課題を与えるので必ず提出すること。建築設計、建築計画学、地域・都市計画、など						
注意点	【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】配布するプリントは、講義による説明を聞き合わせ、必要事項を記入し内容を理解する。 授業で使用する教材の内容については、自主的にメモをとり要点を把握しておく。 【評価方法・評価基準】期末試験を実施する。再試験を実施することがある。 試験成績 (60%)、平常の学習における小課題 (40%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	序論:アーバンデザインの領域と基本的な考え方	アーバンデザインの領域を理解し、説明できる。			
		2週	アーバンデザインの系譜	アーバンデザインの系譜を理解し、説明できる。			
		3週	アーバンデザインと都市のイメージ	アーバンデザインの系譜を理解し、説明できる。			
		4週	街路空間のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		5週	歩行者空間のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		6週	広場のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		7週	緑と公園のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		8週	水辺のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
	4thQ	9週	街区と敷地のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		10週	町並みのデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		11週	商業空間のデザイン	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		12週	歴史的環境の保存	アーバンデザインの手法を理解し、説明できる。			
		13週	まちづくりと住民参加	まちづくりの手法と住民参加について考えを深める。			
		14週	環境共生と都市デザイン	環境共生とそのデザイン手法を理解し、説明できる。			
		15週	前期復習	現代の地域・都市問題を理解し、説明できる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	リモートセンシング	
科目基礎情報							
科目番号	18500		科目区分	専門 / 選択			
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	参考書: 井俊治著「空間情報工学」(日本測量協会)						
担当教員	西澤 辰男						
到達目標							
1.リモートセンシングの原理, センサ, プラットフォームについて理解し, 説明できる。 2.画像処理の原理を理解し, リモートセンシング画像を処理し, 画像判読が行える。 3..地理情報システムの仕組みやデータ構造について理解し, 説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標項目1	リモートセンシングの原理, センサ, プラットフォームについて理解し, 説明できる。		地理情報システムの仕組みやデータ構造の基本について理解し, 説明できる。		地理情報システムの仕組みやデータ構造について理解し説明することが困難である。		
到達目標項目2	画像処理の原理を理解し, リモートセンシング画像を処理し, 画像判読が行える。		画像処理の原理, リモートセンシング画像の判読について理解し, 説明できる。		画像処理の原理, リモートセンシング画像の判読について理解し説明することが困難である。		
到達目標項目3	地理情報システムの仕組みやデータ構造について理解し, 説明できる。		地理情報システムの仕組みやデータ構造の基本について理解し, 説明できる。		地理情報システムの仕組みやデータ構造の基本について理解し説明することが困難である。。		
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム C1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	本授業では, 遠隔探査(リモートセンシング)技術と, これらの処理に要求される画像情報処理技術および地理情報システムに関する基礎的な知識を学習する。さらに実際のリモートセンシングの画像を処理し, 解読する応用技術を習得する。これらの過程を通して, 幅広い視点から自然環境と社会基盤施設の関係を理解し, 意欲的に社会問題や環境問題を解決する能力を養う。						
授業の進め方・方法	スライド説明の後, 板書をするので, ノートを取ることを。画像処理ソフトウェアを用いて簡単な画像処理の演習課題を課すので, 必ず自分でやってみることを。事前事後学習など: 理解を深めるため, 毎回予習・復習課題を与えるので必ず提出すること。 関連科目: 測量学I, 測量学II, 測量学III, 物理学, 数学						
注意点	中間試験, 前期末試験を実施する。 中間試験(40%), 期末試験(40%), 課題演習(20%) 成績の評価基準は60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	リモートセンシングの基礎			リモートセンシングの原理や利用方法について説明できる。	
		2週	センサの分類と特性(1)			センサの分類と特性について説明できる。	
		3週	センサの分類と特性(2)			センサの分類と特性について説明できる。	
		4週	プラットフォームの種類(1)			プラットフォームの種類について説明できる。	
		5週	プラットフォームの種類(2)			プラットフォームの種類について説明できる。	
		6週	データ特性とフォーマット(1)			データ特性とフォーマットについて説明できる。	
		7週	データ特性とフォーマット(2)			データ特性とフォーマットについて説明できる。	
		8週	画像処理の基礎			画像処理の基礎について説明できる。	
	2ndQ	9週	画像判読法			画像処理の基礎について説明できる。	
		10週	画像処理ソフトの使用法			画像処理ソフトを操作できる。	
		11週	画像処理演習(1)			画像処理ソフトを使ってリモートセンシングの画像を処理できる	
		12週	画像処理演習(2)			画像処理ソフトを使ってリモートセンシングの画像から情報を抽出できる	
		13週	地理情報システムの基礎			地理情報システムについて簡単な説明ができる。	
		14週	地理情報システムの利用例			地理情報システムの利用例について説明できる。	
		15週	復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	0	80
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	20	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	交通システム・都市施設デザイン		
科目基礎情報							
科目番号	18510	科目区分	専門 / 選択				
授業形態		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	金子雄一郎著 「交通計画学」 コロナ社						
担当教員	寺山 一輝						
到達目標							
1. 交通システム・都市施設に関する専門用語を説明できる。 2. 道路ネットワークの設計に関する知識を習得する。 3. 交通流の基本的な特性を説明できる。 4. 都市施設へのアクセシビリティの評価が行える。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
到達目標項目1	交通システム・都市施設に関する専門用語を理解し、説明できる。	交通システム・都市施設に関する専門用語の基本を理解し、説明できる。	交通システム・都市施設に関する専門用語の基本を理解せず、説明できない。				
到達目標項目2, 3	交通量、交通流の特性を理解し、説明できる。	交通量、交通流の特性の基本を理解し、説明できる。	交通量、交通流の特性の基本を理解せず、説明できない。				
到達目標項目4	アクセシビリティの特性を理解し、計算することができる。	アクセシビリティの特性を理解し、説明することができる。	アクセシビリティの特性を理解せず、説明することができない。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム C1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	交通システムと都市施設は、様々な都市活動を維持するために必要不可欠な社会基盤であり、持続可能なまちづくりを実現する上では、両者の連携が求められている。本授業では、個々の交通システム、都市施設の設計に関する専門的知識を習得するとともに、今後の持続可能なまちづくりのあり方について学習する。						
授業の進め方・方法	交通システム・都市施設デザイン、交通工学を講義、演習で学ぶ。 【事前事後学習など】疑問点は、授業時間内や放課後に積極的に質問すること。日ごろから交通手段・施設に関する話題に関心を持って、新聞などを通して様々な情報を収集するように心掛けてほしい。 【関連科目】都市・交通計画、国土・地域計画、アーバンデザイン						
注意点	【評価方法・評価基準】 中間試験、前期末試験を実施する。 中間試験（40%）、期末試験（40%）、演習課題（20%） 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	交通システムと都市施設デザイン	システムと交通の関係、都市施設と交通の関係、都市計画と交通計画の関係性を理解し、説明できる。			
		2週	道路の設計（交通量）	交通量の特性を理解し、説明できる。			
		3週	道路の設計（交通量、交通流）	30番目時間交通量の特性および、交通流の基本特性を理解し、説明できる。			
		4週	道路の設計（交通流）	交通流の基本ダイアグラムを理解し、交通量、密度、速度の計算ができる。			
		5週	交通渋滞、信号制御	交通渋滞のメカニズム、信号制御の方法を理解し、説明できる。			
		6週	道路構造	道路構造に関する基礎知識を理解し、説明できる。			
		7週	ターミナルの整備（駅前広場）	駅前広場の基本的な設計方法を理解し、説明できる。			
		8週	ターミナルの整備（バス）	バスターミナルの基本的な設計方法を理解し、説明できる。			
	4thQ	9週	都市施設ターミナルの整備（駐車場）	駐車場の設計方法を理解し、説明できる。			
		10週	都市施設の配置（商業、医療、厚生、福祉施設）	都市施設の配置に関する課題や、これからの配置のあり方について理解し、説明することができる。			
		11週	都市施設の配置（教育、文化施設）	都市施設の配置に関する課題や、これからの配置のあり方について理解し、説明することができる。			
		12週	都市施設へのアクセシビリティの評価（1）	アクセシビリティの定義、アクセシビリティ指標について理解し、説明することができる。			
		13週	都市施設へのアクセシビリティの評価（2）	アクセシビリティ指標を用いて、実際に計算し、利便性を評価することができる。			
		14週	今後のまちづくり・交通施策のあり方	現在におけるまちづくりの課題を理解したうえで、今後のまちづくりのあり方を考えることができる。			
		15週	復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築環境計画演習	
科目基礎情報							
科目番号	18520		科目区分	専門 / 選択			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	田中俊六他「建築環境工学 改訂4版」(井上書院)						
担当教員	森原 崇						
到達目標							
1. 環境要素と建築との係わりを説明できる。 2. 環境要素に関する基本的な数値計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	環境要素と建築との係わりを説明できる。		基礎的な環境要素と建築との係わりを説明できる。		環境要素と建築との係わりを説明できない。		
評価項目2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。		環境要素に関する基本的な数値計算を少しできる。		環境要素に関する基本的な数値計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	人や建築に係わる環境要素について数値的にも理解を深め、建築設計の考え方にも役立てられるようになる。						
授業の進め方・方法	[関連科目]建築環境工学 I, 建築環境工学II, 建築環境工学III, 建築設備計画 I, 建築設備計画II						
注意点	演習室外で演習する場合もあるので、遅刻しないこと。 レポートの提出締め切りは厳守すること。 [評価方法・評価基準] 毎回の演習レポート点を合計して100%とする。 演習に参加しなかったレポートは点数を減じて採点する。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	日照・日射に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
		2週	日照・日射に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		3週	採光・照明に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
		4週	採光・照明に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		5週	建築音響・騒音に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
		6週	建築音響・騒音に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		7週	建築音響・騒音に関する演習 3	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		8週	温熱に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
	2ndQ	9週	温熱に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		10週	温熱に関する演習 3	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		11週	換気・通風に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
		12週	換気・通風に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		13週	湿気・結露に関する演習 1	環境要素と建築との係わりを説明できる。			
		14週	湿気・結露に関する演習 2	環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		15週	前期復習	環境要素と建築との係わりを説明できる。 環境要素に関する基本的な数値計算ができる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	建築設備計画演習		
科目基礎情報							
科目番号	18530	科目区分	専門 / 選択				
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	教科書: 「建築環境工学」「建築設備計画」の教科書, 教材等: 必要に応じてプリントを配布する。 , 参考書: 坂上・鎌田編著「基礎からわかる給排水設備」彰国社						
担当教員	恩村 定幸						
到達目標							
1. 湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。 2. 空調設備の構成・方式を理解し, 説明できる。 3. 空調負荷を理解し, 空調負荷計算が行える。 4. 給排水設備の検討が行える。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
到達目標項目1	湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。	湿り空気を理解できる。	湿り空気を理解できない。				
到達目標項目2	空調設備の構成・方式を理解し, 説明できる。	空調設備の構成・方式を理解できる。	空調設備の構成・方式を理解できない。				
到達目標項目3	空調負荷を理解し, 空調負荷計算が行える。	空調負荷を理解できる。	空調負荷を理解できない。				
到達目標項目4	給排水設備を理解し, 各種検討が行える。	給排水設備を理解できる。	給排水設備を理解できない。				
学科の到達目標項目との関係							
本科教育目標 1 本科教育目標 2 創造工学プログラム B1専門(建築学)							
教育方法等							
概要	建築設備計画の授業内容を理解し, 様々な課題を解く実力を身につけるには, 多くの演習問題を行うことが効果的である。本科では, 建築設備計画に関して, 建築技術者として修得すべき必須の基礎知識を必要とする演習を行い, 建築設備の基本計画, 基本設計に関する問題解決能力の向上を図る。						
授業の進め方・方法	「事前事後学習」 「関連科目」建築環境工学 I, 建築環境工学II, 建築環境工学III, 建築設備計画 I, 建築設備計画 II						
注意点	関数電卓、定規等を用意すること。 演習課題の提出については締め切りを厳守すること。 配布資料はファイリングして保管すること。 「評価方法」 学年末試験を実施する。毎回の演習課題の提出状況および内容を評価する。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 学年末試験 (30%) , 演習 (70%)						
テスト							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	講義ガイダンス				
		2週	湿り空気について	湿り空気を理解できる。			
		3週	湿り空気線図の活用方法 (1)	湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。			
		4週	湿り空気線図の活用方法 (2)	湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。			
		5週	湿り空気線図の活用方法 (3)	湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。			
		6週	湿り空気線図の活用方法 (4)	湿り空気を理解し, 湿り空気線図が活用できる。			
		7週	空調設備構成・方式の検討 (1)	空調設備の構成・方式を理解し, 説明できる。			
		8週	空調設備構成・方式の検討 (2)	空調設備の構成・方式を理解し, 説明できる。			
	4thQ	9週	熱負荷計算 (1)	空調負荷を理解し, 空調負荷計算が行える。			
		10週	熱負荷計算 (2)	空調負荷を理解し, 空調負荷計算が行える。			
		11週	給水設備の検討 (1)	給水設備を理解し, 各種検討が行える。			
		12週	給水設備の検討 (2)	給水設備を理解し, 各種検討が行える。			
		13週	排水設備の検討 (1)	排水設備を理解し, 各種検討が行える。			
		14週	排水設備の検討 (2)	排水設備を理解し, 各種検討が行える。			
		15週	後期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習	合計
総合評価割合	30	0	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	0	0	0	0	70	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0